

# 理系のあなたへ 労働基準監督官 という選択

働く人のために  
その使命感を力に

理系学部出身  
労働基準監督官の  
インタビュー動画公開中



<https://www.youtube.com/watch?v=5eRXeGmdd3c>

詳しくは  で検索

[https://jsite.mhlw.go.jp/tokyo-roudoukyoku/roudoukyoku/saiyouannnai/kantokkan\\_00.html](https://jsite.mhlw.go.jp/tokyo-roudoukyoku/roudoukyoku/saiyouannnai/kantokkan_00.html)

# 東京労働局

## 労働基準監督官



↑東京労働局外観



↑労働基準監督官による強制捜査

### 東京労働局の魅力（仕事面）

#### 労働行政の第一線で活躍できる

東京には、全国に展開する大企業が集中していることから、監督指導が全国に波及することも多く、より大きな仕事をしているという実感があります。

また、社会的注目を浴びる司法事件を担当することもあり、全国規模で報道されることもあります。

さらに、過重労働に係る大規模事案等に対応する専従対策班であり高度な捜査技術を有する「過重労働撲滅特別対策班（通称「かとか」）」は、東京と大阪にしかなく、東京局に配属された方だけが、東京の「かとか」の仕事をする事ができます。



#### 全国最大規模の職員数

東京は監督署の職員数が多く、全国最大規模の中央労働基準監督署では100人前後の職員が働いています。

また、他局と比べて、多くの若手職員が勤務しているため、互いに相談をしたりすることで、先輩や同年代の職員との交流を深め、悩みなどの解消ができ、社会生活を充実させることができます。

さらに、サービス残業の捜査などで必要になるデジタルフォレンジック(PCログの解析やハードディスクに残るデータの復元などの特殊な鑑識技術)など、高度かつ専門的な知識を持つ職員もいます。

### 東京労働局の魅力（生活面）

都内での勤務なので、局内異動による転居が基本的に不要。  
(埼玉・千葉・神奈川などから通勤している職員も多数。)



転居が基本的に不要

東京23区内勤務であれば地域手当として俸給額等の20%が、その他の地域でも12~16%が支給されます。



高い水準の地域手当

地下鉄等公共交通機関が充実しているため、会社訪問の際もアクセスしやすく便利です。



交通機関が充実

年次有給休暇 取得日数  
年間約16日  
(令和4年度実績)



休んでリフレッシュ!

育児休暇取得率  
女性100%  
男性81.8%  
(令和4年度実績)  
育児時間などの制度もあります



子育てを応援!

遊びに行くところ、美味しいものが多く、充実したプライベートを送ることができます。



充実した生活

### 東京労働局の魅力（安全衛生）



東京局管内には、超高層ビルなどの最先端の工法を用いた大規模建設工事現場等が数多くあるため、貴重な経験をする機会に恵まれています。

大田区や足立区などにある中小規模の工場から多摩地区にある大規模工場まで、東京局管内には様々な工場があります。安全衛生業務の研修も充実しています。

東京局管内にある大企業本社に対して、メンタルヘルス対策等の労働者の健康確保措置や安全対策を指導し、より多くの労働者の心と身体の健康を守る仕事ができます。

労働基準監督官の他県への転勤は採用後3・4年目だけです。それ以外は原則採用された労働局内での勤務になります。